

## 「学修成果に関する調査」の報告

本報告書は、2013年度から3年ごとに実施してきた「学修成果に関する調査」の結果を振り返り、まとめたものである。

中部大学では、『魅力ある授業づくり』を重点目標に掲げたFD活動の一環として、「教育の質保証」という見地から、学生の「主体的な学び」を点検・評価する「学修成果に関する調査」を2013年度から3年ごとに試行的に実施してきた。これらの調査結果から読み取れることをまとめ、今後の課題を報告する。

### 1. 調査目的

学生の「主体的な学び」に向けての状況や学修成果に関する状況を把握し、今後の教育内容を検討するための資料とする。

### 2. 調査方法

本学独自のアンケートシステム「CumocL（キューモエル）：Chubu University Mobile Clicker L」を活用した。「CumocL」は、回答者を指定し、携帯電話やスマートフォンから利用可能なクリッカー機能を持つアンケートシステムである。

### 3. 対象

調査年度の3月1日現在、学部在籍する学生（科目等履修生等を除く）を対象とした。

### 4. 調査項目

調査項目は次の4つの内容になっている。

- 1) 受講した授業の形態
- 2) 学習への取り組み方
- 3) 身についたと思う力
- 4) 学修成果に対する満足度

### 5. 設問

#### 5.1 2013年度の設問

2013年度の調査は、選択式設問を10問と自由記述を1問で実施した。選択式設問は、受講した授業の形態、学習への取り組み方に関して各3問、身についたと思う力に関して4問、満足度に関して1問とし、自由記述では、教育の内容や方法に関して意見や感想を尋ねた。表1に設問内容と回答選択肢を示す。

#### 5.2 2016年度と2019年度の設問

2016年度と2019年度の調査は、設問数を増やし、【アンケートA：学びの状況】と【アンケートB：学修成果】の2つのカテゴリーに分けた。【アンケートA：学びの状況】は、受講した授業の形態に関する設問を4問、学習への取り組み方に関する設問を6問、計10問の選択式設問と自由記述1問とし、【アンケートB：学修成果】は、身についたと思う力に関する設問を9問と満足度に関する設問を1問、計10問の選択式設問と自由記述1問として実施した。表2.1と表2.2に設問内容と回答選択肢を示す。

表 1 2013 年度の設問と選択肢

分類	設問 No.	設問内容	回答選択肢	
受講した授業の形態	01	あなたが、この1年間に受講した授業で、現在あるいは将来役立ちそうな授業はありましたか。	a:よくあった b:ときどきあった c:あまりなかった d:まったくなかった	
	02	あなたが、この1年間に受講した授業で、実験、実習、演習、フィールドワークなどを実施し、体験的に学ぶ授業はありましたか。		
	03	あなたが、この1年間に受講した授業で、受講生が自分の考えや研究を発表する、または学生同士で議論をするような授業はありましたか。		
学習への取り組み方	04	あなたは、この1年間で授業の内容や課題に関連して、図書館で資料を調べたり、インターネットを活用したことはありましたか。		
	05	あなたは、この1年間で授業時間外に他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話し合ったことはありましたか。		
	06	あなたは、この1年間で授業時間外に教職員に学習に関する相談をしたことはありましたか(学内の学習支援室などを含む)。		
身についたと思う力	07	あなたは、入学したときと比べて一般的な教養や専門的な知識・技術が身についたと思いますか。		a:大変身についた b:身についた c:少しは身についた d:ほとんど変わらない
	08	あなたは、入学したときと比べて他の人と協力して物事を進めていく力が身についたと思いますか。		
	09	あなたは、入学したときと比べて学習した結果をまとめて発表する力が身についたと思いますか。		
満足度	10	あなたは、入学してから今までにあなた自身が学修した成果(結果)について満足していますか。		a:大変満足している b:満足している c:あまり満足していない d:満足していない
自由記述		中部大学における教育内容や教育方法などについてあなたの意見や感想を記入してください。		

表 2.1 2016 年度・2019 年度【アンケート A : 学びの状況】の設問と選択肢

分類	設問 No.	設問内容	回答選択肢
受講した授業の形態	A01	あなたが入学してから受けた授業の中で、実験、実習、演習、フィールドワークなどを通して体験的に学ぶ授業はありましたか。	a:よくあった b:ときどきあった c:あまりなかった d:まったくなかった
	A02	あなたが入学してから受けた授業の中で、自分の考えや研究を発表する授業はありましたか。	
	A03	あなたが入学してから受けた授業の中で、学生同士で議論をするような授業はありましたか。	
	A04	あなたが入学してから受けた授業の中で、定期的レポートや小テストを課される授業はありましたか。	
学習への取り組み方	A05	あなたは、入学してから授業の内容や課題に関連して、図書館で資料を調べたりしたことはありましたか。	
	A06	あなたは、入学してから授業の内容や課題に関連して、インターネットを活用したことはありましたか。	
	A07	あなたは、入学してから授業時間外に他の学生と一緒に勉強をしたり、授業内容を話し合ったことはありましたか。	
	A08	あなたは、入学してから授業時間外に教職員に学習に関する相談をしたことはありましたか(学内の学習支援室の利用も含む)。	
	A09	あなたは、入学してから授業中に教員に対して質問をしたり、意見を述べたりしたことはありましたか。	
	A10	あなたは、入学してから授業時間以外にどの程度勉強したと思いますか。	
自由記述		中部大学における教育内容や教育方法などについてあなたの意見や感想を記入してください。	

表 2.2 2016 年度・2019 年度【アンケート B：学修成果】の設問と選択肢

分類	設問 No.	設問内容	回答選択肢
身についたと思う力	B01	あなたは、入学したときと比べて一般的な教養が身についたと思いますか。	a:大変身についた b:身についた c:少しは身についた d:ほとんど変わらない
	B02	あなたは、入学したときと比べて専門的な知識・技術が身についたと思いますか。	
	B03	あなたは、入学したときと比べてワードやエクセル、パワーポイントなどを使う力やパソコンに関する知識が身についたと思いますか。	
	B04	あなたは、入学したときと比べて情報を収集する力や収集した情報から必要な情報を選択する力が身についたと思いますか。	
	B05	あなたは、入学したときと比べて習得した知識や技能に基づいて、物事の問題点を見つけ、課題を設定する力が身についたと思いますか。	
	B06	あなたは、入学したときと比べて相手の考えを聴き理解したうえで、自分の考えをまとめ、議論する力が身についたと思いますか。	
	B07	あなたは、入学したときと比べて他の人と協力して物事を進めていく力が身についたと思いますか。	
	B08	あなたは、入学したときと比べて学習した結果をまとめて発表する力が身についたと思いますか。	
	B09	あなたは、入学したときと比べて自ら気づき、自ら学んでいく力が身についたと思いますか。	
満足度	B10	あなたは、入学してから今までにあなた自身が学修した成果(結果)について満足していますか。	a:大変満足している b:満足している c:あまり満足していない d:満足していない
自由記述		あなたが中部大学において学修した成果(結果)について考えや感想を記入してください。	

## 6. 回答率

「学修成果に関する調査」の学年ごとの対象者数、回答者数、回答率を表 3 に示す。3 回とも 1 年生の回答率が最も高い。全体の回答率は、2013 年度と 2016 年度は 40%を超えているが、2019 年度は 29.1%に留まり、最も低かった。学生への調査の案内は、3 回ともメールや掲示物およびオリエンテーションや学位記授与式の際に各学科教員からアナウンスしてもらおうなど、同様の方法で行ったが、2019 年度の回答率が過去 2 回に比べて低いのは、新型コロナウイルス感染拡大によるオリエンテーションや学位記授与式の参加者減少、開催時間の短縮等が影響したと考えられる。

表 3 年度別回答率

実施年度	2013 年度	2016 年度	2019 年度	
実施日程	2014 年 3 月 1 日 ～3 月 28 日	2017 年 3 月 1 日 ～3 月 27 日	2020 年 3 月 2 日 ～3 月 26 日	
設問数	選択設問 10 問 +自由記述 1 問	選択設問 20 問 +自由記述 2 問	選択設問 20 問 +自由記述 2 問	
回答者数 / 対象者数 (回答率)	1 年	1,579 / 2,746 (57.5%)	1,323 / 2,782 (47.6%)	1,056 / 2,585 (40.9%)
	2 年	1,158 / 2,488 (46.5%)	1,184 / 2,728 (43.4%)	908 / 2,623 (34.6%)
	3 年	1,056 / 2,515 (42.0%)	1,039 / 2,734 (38.0%)	608 / 2,680 (22.7%)
	4 年	779 / 2,245 (34.7%)	1,086 / 2,512 (43.2%)	483 / 2,618 (18.4%)
	計	4,572 / 9,994 (45.7%)	4,632 / 10,756 (43.1%)	3,055 / 10,506 (29.1%)

## 7. 実施年度別回答分布と平均値

ここでは実施年度別の回答分布と平均値から回答の傾向を考察する。

### 7.1 実施年度別回答分布

図1は【アンケート A：学びの状況】、図2は【アンケート B：学修成果】の実施年度別回答分布を示している。2013年度の調査結果については、全10問のうち、以後2回の調査に引き続き用いた3問のみを表示している。

図1において、肯定的な回答が最も多い設問は、A04「定期的にレポートや小テストを課される授業はありましたか」である。約67%以上が「よくあった」と回答しており、「ときどきあった」を含めると約97%以上にのぼる。ほとんどの授業でレポートや小テストが課されており、レポートや小テストを課することのない授業は、極めて少ないようである。次に肯定的な回答が多い設問は、A06「授業の内容や課題に関連して、インターネットを活用したことはありましたか」で、約60%が「よくあった」と回答しており、「ときどきあった」を含めると、2016年度では約94%以上、2019年度では約95%に上っている。インターネットの活用はほとんどの学生に定着しているようである。

また、肯定的な回答が最も少ない設問は、A08「授業時間外に教職員に学習に関する相談をしたことはありましたか」であり、「よくあった」と回答したのは約13%、「ときどきあった」を含めると約44%である。次に肯定的な回答が少ない設問は、A09「授業中に教員に対して質問をしたり、意見を述べたりしたことはありましたか」であり、「よくあった」と回答したのは約12%、「ときどきあった」を含めると2016年度は約44%、2019年度も約48%に留まり、半数に満たない状況であった。

図2の傾向は、図1に比べて設問ごとの差異が小さいことが挙げられる。B01からB09のすべての設問において、「大変身について」の回答は約15～26%に留まっているが、「身についた」を含めた肯定的な回答は約51～72%であり、各年度、いずれの知識・能力においても半数以上が修得を実感している。また、肯定的な回答が最も多い設問は、B02「専門的な知識・技術が身についたと思いますか」で、約25%が「大変身について」と回答しており、「身についた」を含めると約71～72%であった。一方、肯定的な回答が少ない設問は、B05「物事の問題点を見つけ、課題を設定する力が身についたと思いますか」、B06「自分の考えをまとめ、議論する力が身についたと思いますか」、B08「学習した結果をまとめて発表する力が身についたと思いますか」、B09「自ら学んでいく力が身についたと思いますか」であり、「大変身について」と回答したのは約15～17%で、「身についた」を含めると約51～60%に留まっている。一般的な教養や基礎的な知識・能力に比べて、課題設定能力やディスカッション能力などの応用的な能力は、修得の実感が低い傾向が見られた。

### 7.2 実施年度別回答平均値

図3は、【アンケート A：学びの状況】と【アンケート B：学修成果】の回答を a=4,b=3,c=2,d=1 としてポイント化し、2016年度と2019年度の設問ごとの平均値を示したものである。2016年度と2019年度を比較すると、全体的に大きな変化は見られないが、ほとんどの設問において、2019年度の方が平均値は若干上がっており、肯定的な回答が増えている。最も平均値に伸びがあった設問は、A10「授業時間以外にどの程度勉強したと思いますか」であり、2.75から2.85へ0.10上昇している。一方、平均値が下がった設問は3つで、A02「自分の考えや研究を発表する授業はありましたか」とA05「授業の内容や課題に関して、図書館で資料を調べたことはありましたか」で0.02、B10「入学してから今までに学修した成果（結果）について満足していますか」で0.01下がっている。

## 8. 学年別回答平均値

ここでは学年別の回答平均値から回答の傾向を考察する。

図4と図5は、2016年度と2019年度の【アンケートA：学びの状況】と【アンケートB：学修成果】の回答をa=4,b=3,c=2,d=1としてポイント化し、それぞれ学年別に平均値を示したものである。概ね学年が進むにつれ、回答平均値は高くなっている。学生は、毎年それぞれの授業を受講し、色々な経験を積んで、自身の成長を実感しているように読み取れる。また、図4と図5の【アンケートB：学修成果】の回答平均値に着目すると、1年生と2年生の差は小さく、2年生と3年生の差が大きい。回答平均値の上昇は学年間で異なり、均等ではないことが分かる。

高学年の回答平均値が高くなるのは、この設問が、「入学してから受けた授業で…」や「入学したときと比べて…」のように、入学してから調査時までの累積的な体験や成果を尋ねているため、必然的な結果とも言える。そこで、学年に応じて回答平均値が上昇していない設問に着目してみる。表4は、【アンケートB：学修成果】の回答平均値を学年間で比較した場合に、学年に応じて回答平均値が上昇していない箇所を示している。設問B09「入学したときと比べて自ら気づき、自ら学んでいく力が身についたと思いますか」は、2016年度と2019年度の2回、設問B10「入学してから今までに学修した成果（結果）について満足していますか」は、2013年度、2016年度、2019年度の3回とも2年生の回答平均値が1年生より上昇していない。また、2019年度では、設問B09と設問B10のほか、設問B01「一般的な教養が身についたと思いますか」と設問B07「他の人と協力して物事を進めていく力が身についたと思いますか」でも、2年生の回答平均値が1年生より下回っている。これらのことから、2年生は他の学年に比べて、学修成果の満足度を実感し難い傾向があると考えられる。

表4 【アンケートB：学修成果】回答平均値の学年間の比較

設問	回答平均値 学年間の大小関係		
	2013年度	2016年度	2019年度
B01 一般的な教養		－	2年<1年<3年<4年
B02 専門的な知識や技術		－	－
B03 パソコンに関する知識		－	－
B04 情報を収集・選択する力		－	－
B05 課題を設定する力		－	－
B06 考えをまとめて議論する力		－	－
B07 協力して物事を進める力		－	2年<1年<3年≒4年
B08 結果をまとめて発表する力	－	－	－
B09 自ら学んでいく力	－	1年≒2年<3年<4年	2年<1年<3年<4年
B10 学習成果の満足度	1年≒2年<3年<4年	2年<1年<3年<4年	2年<1年<3年<4年

## 9. まとめ

学修成果における満足度の向上は、大学教育の最も重要な目標の1つである。学生には、大学で様々な授業を受け、自ら学習に取り組み、多くの経験を重ねることで自身の成長を実感し、その成果に満足してもらいたい。学生一人ひとりが学年に応じて高い満足度を得るとともに、全体の満足度も

年度ごとに向上していくのが理想的である。他の学年に比べて2年生の満足度が低い原因を調査し、改善に繋げていく必要がある。

## 10. 今後の課題

「学修成果に関する調査」は、2013年度から3年ごとに3回実施したが、1回目と2回目以降の設問を変更しているため、3回分の比較はできず、本報告書では、主に2016年度と2019年度の2回の調査結果の比較となった。調査結果に応じて設問を見直し、修正や変更を加えることは重要であるが、経年的な変化や推移を調べるためには、ある程度、同じ設問で継続的に調査していく必要がある。また、この調査の設問は、「入学してから受けた授業」や「入学してから身についた力」のように卒業までの累積的な感覚を尋ねているが、「この1年間」や「前の学期」のように、期間を区切った方が学年間の変化を明確に調査できると考える。

2019年度に定められた本学のアセスメント・ポリシー（学修成果の評価の方針）には、「学生アンケート」がその評価方針の一指標として掲げられている。教育内容を検証し、改善を図るため、今後は学生の学修成果をより正確に把握し、可視化する必要がある。

これらを踏まえ、2021年度から「学修成果に関する調査」を発展的に解消し、新たに「学びに関する調査」を実施することになった。「学びに関する調査」は、学修行動や学修成果を調査すると共に学生自身の振り返りと気づきの機会となるよう、設問を構成している。調査時期は、学生が前の学期を振り返り、新学期の目標を設定することで、学びの意欲を高められるよう、毎学期の履修申告時とした。また、この調査は本学の教育支援システム「Tora-Net Portal」を利用し、履修申告に併せて全学部生を対象に実施することにより、安定的に高い回答率で、学年や学部学科に偏りのないデータを収集することが可能となる。また、記述式の設問では、「中部大学に期待すること、より良くするためのアイデア」を募り、学生に建設的な意見を求めていく。今後、調査結果をいかに本学の教学を中心とした改善と向上に繋げていくかが最大の課題である。調査結果の有効な分析や情報共有の方法を検討し、教育活動の改善・向上の支援に努めていきたい。

大学企画室 大学IR推進部

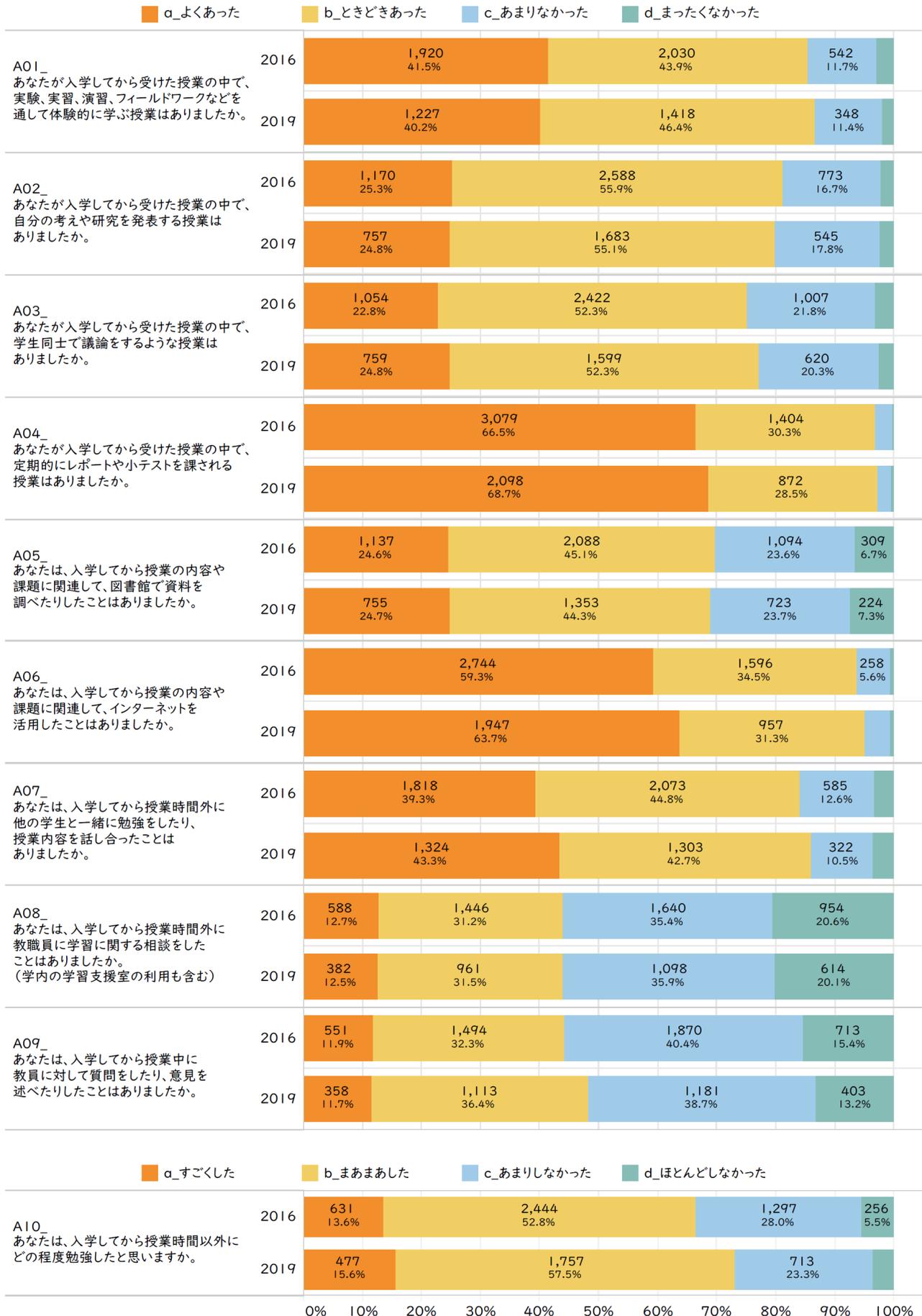


図1 実施年度別 回答分布 アンケートA

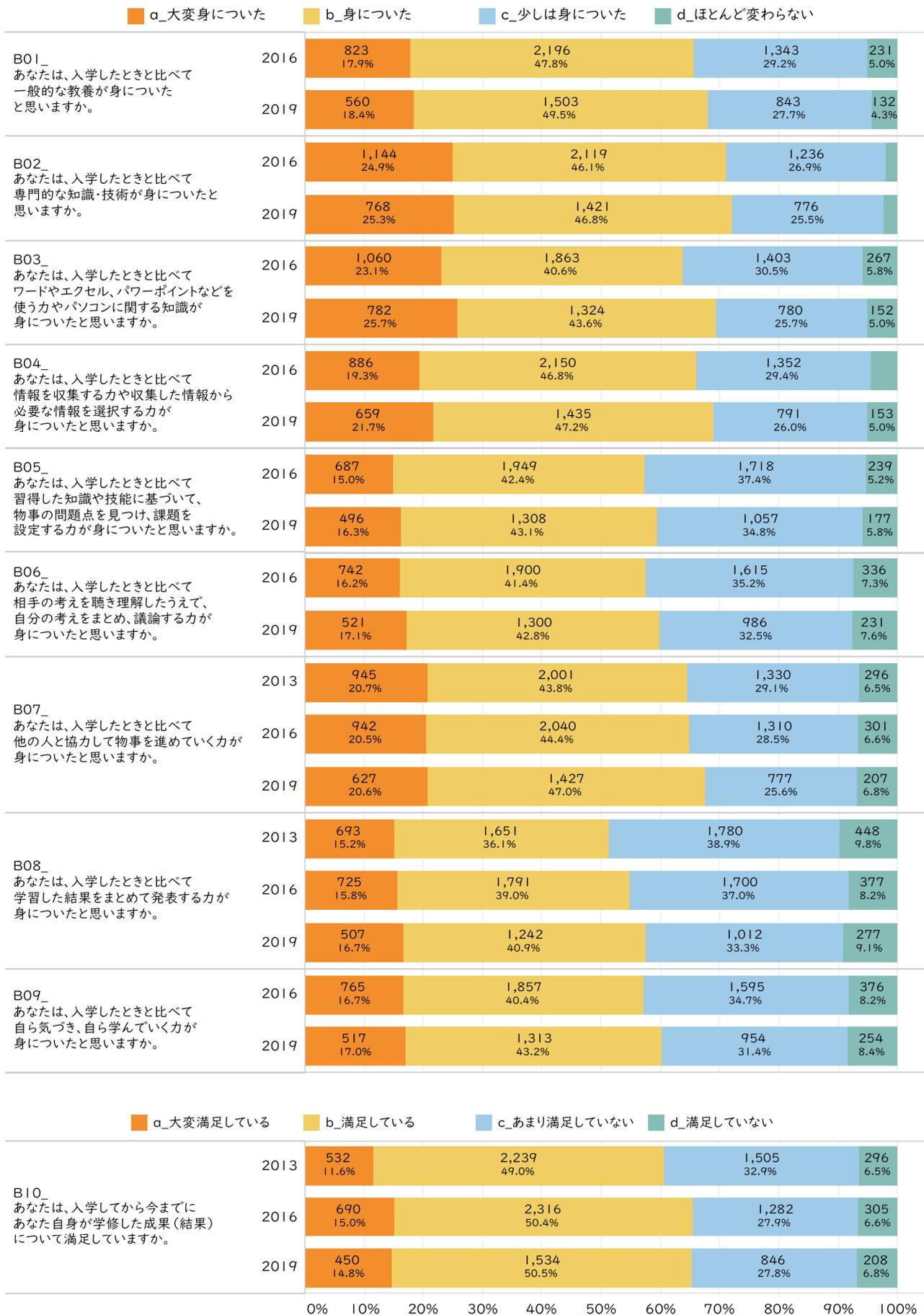


図2 実施年度別 回答分布 アンケートB

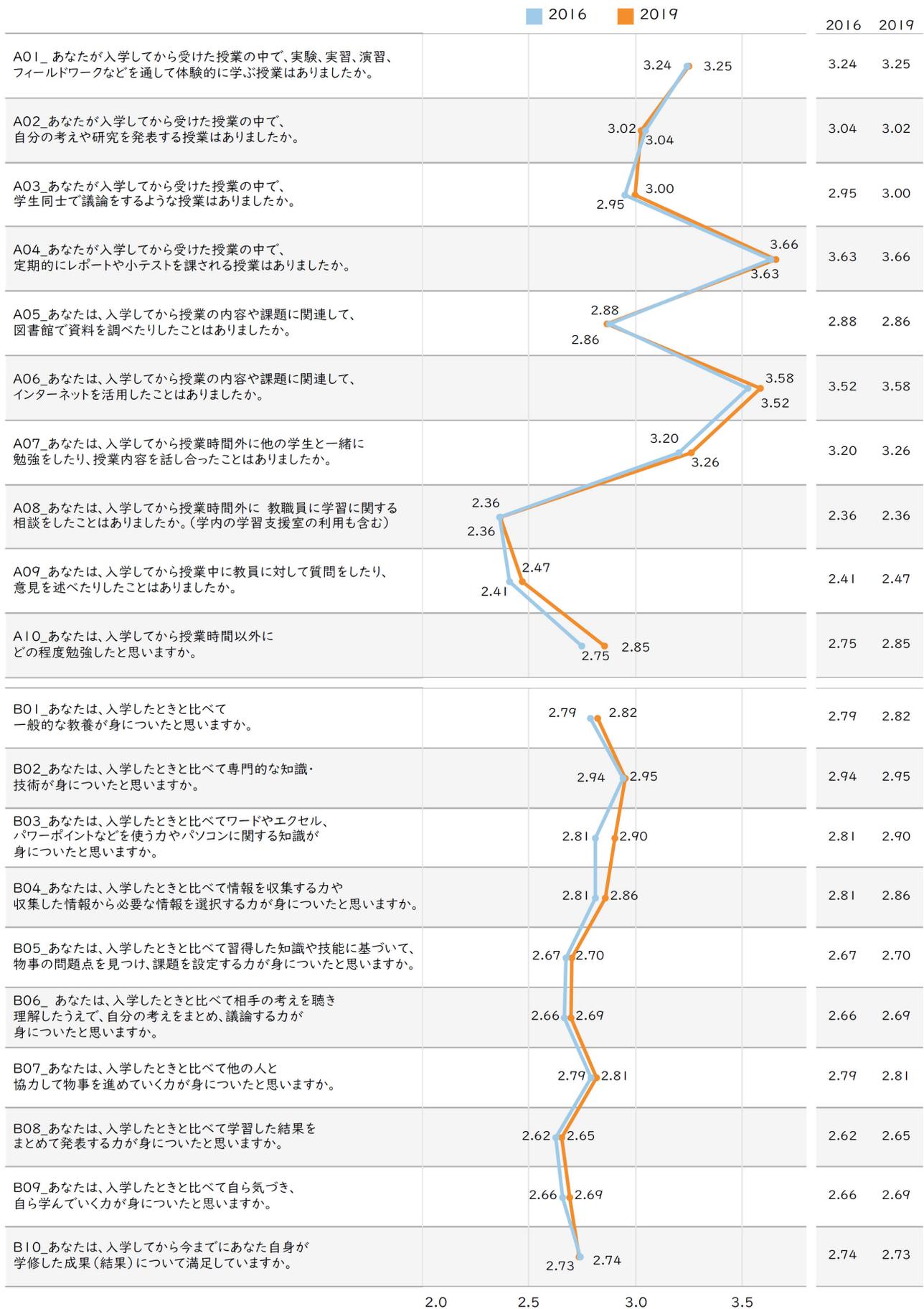


図3 実施年度別 回答平均値

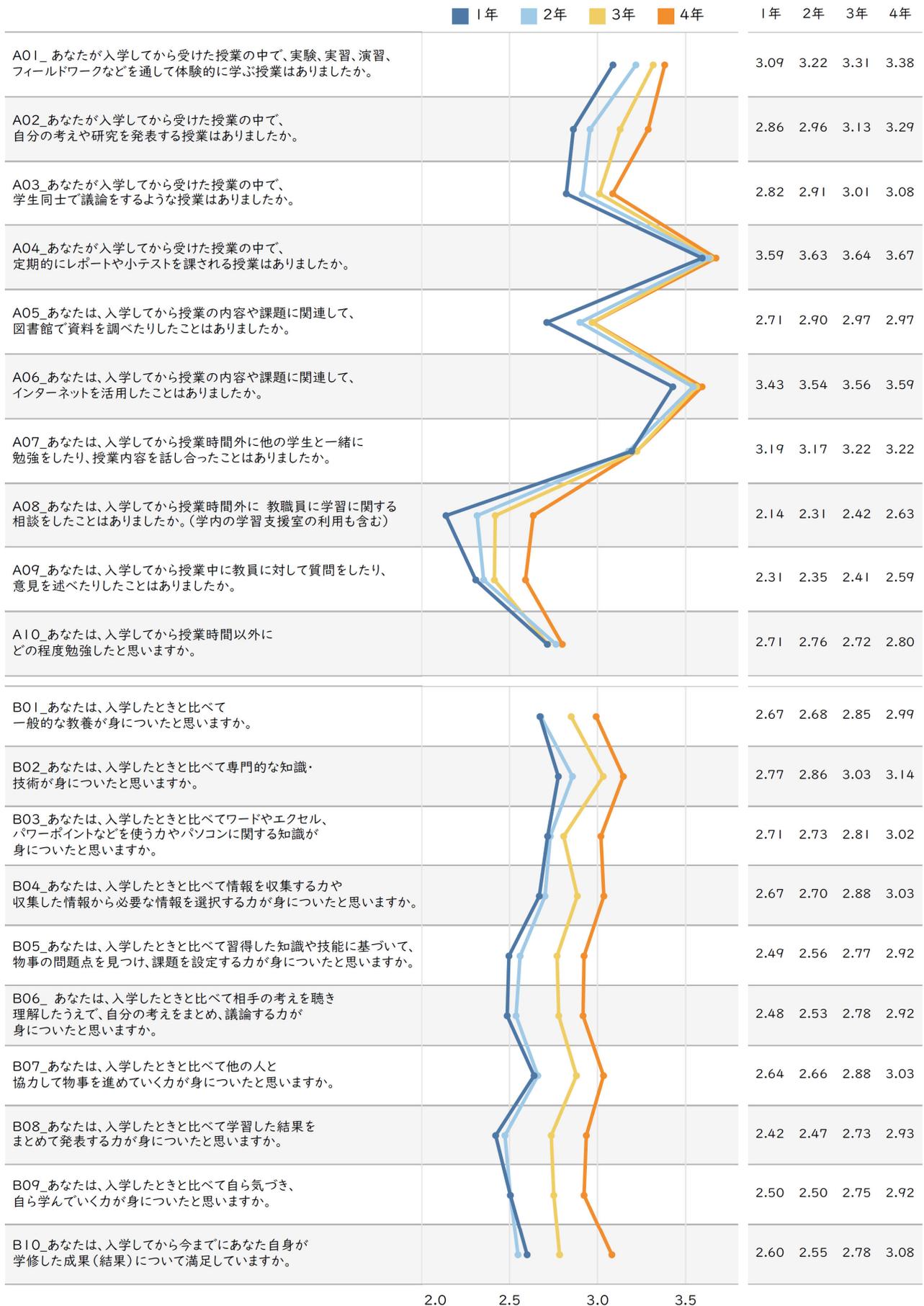


図4 2016年度 学年別 回答平均値

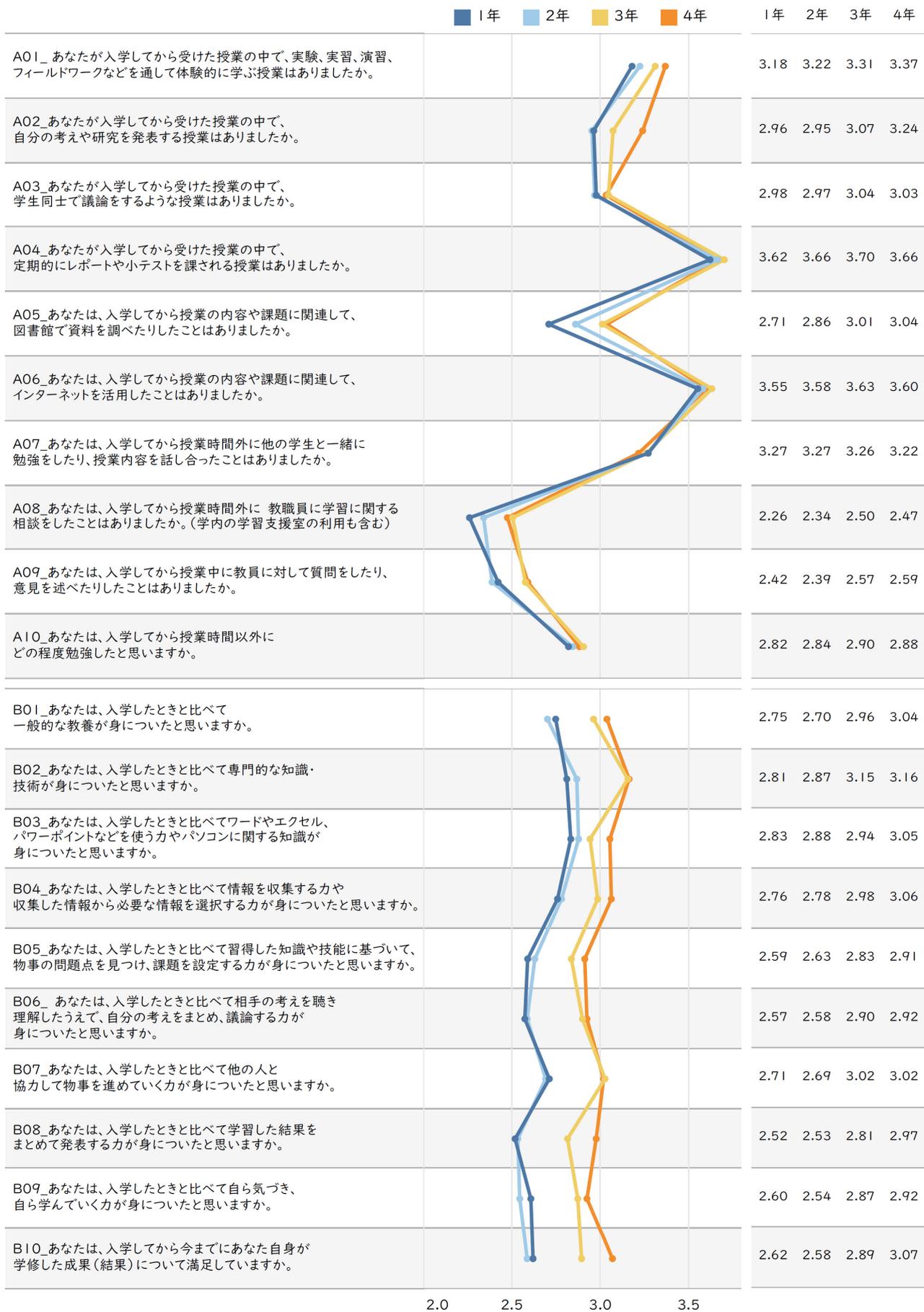


図5 2019年度 学年別 回答平均値